室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画（案）地域説明会

〇日　　時：　令和５年７月１１日（火）
〇場　　所：　吉良川小学校
〇市出席者：　百田教育長、山本教育次長兼学校教育課長、村上課長補佐、髙﨑班長
〇参加者数：　１８人

（髙﨑）
それでは、定刻となりましたので、室戸市保育所及び小中学校適正規模、適正配置についての地域説明会を開催します。
まず初めに、担当者の紹介をさせていただきます。教育長からお願いします。
　≪担当者挨拶≫
（髙﨑）
この説明会では、令和２年度から検討を始めました、室戸市保育所及び学校適正規模、適正配置についての実施計画案を作成しましたので、その内容について説明させていただきます。なお、この説明会は記録作成のため録音させていただきますのでご了承ください。
それでは、説明会を開催させていただきます。まず、教育長から挨拶をお願いします。
（百田）
こんばんは。大変熱い中、それからお仕事の後、あるいは夕食の準備その他いろいろお忙しい時に、この説明会に参加していただきましてありがとうございます。今日の説明会のお手元の資料を配らせて頂いておりますけれども、実施計画の案を作成して、それぞれの地域で、今日で４地区目でございますけれども、説明をさせていただいてご意見等をお聞きしてですね、実施計画を作るという予定にしています。どうか遠慮のないご意見ご質問等だしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
（髙﨑）
それでは続きまして学校教育課長の山本より、まず初めにこれまでの経緯について説明させていただきまして、その後で室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置の実施計画案について説明をさせていただきます。それぞれについて質疑応答の時間を設けますのでよろしくお願いいたします。
（山本）
　≪資料に沿って経過説明≫
（髙﨑）
それでは、先程の説明につきまして質疑のある方ございましたら挙手をお願いしたいと思います。
無いようでしたら、実施計画案の説明に進ませていただきます。
（山本）
　≪資料に沿って実施計画案説明≫
（髙﨑）
それでは質疑応答に移りますので、質問のある方は挙手お願いします。

（参加者）
教育長は説明しないのか。教育長は説明しないのか言いゆう。
（山本）
説明については私の方からになります。
（参加者）
前にも言いましたけど、中学校の統合は先に決まっとる訳よね。統合ありきということやね。その上で、説得するというようなやり方なんだよな。
私こないだも言いましたように、少人数の学校でもええじゃないか。小中学校が昔のように併設されて、規模は小さくなったとしても、地域に学校を残すことの方がずっと大事なんじゃないかと。だからね、今の少人数の生徒でも教育はやっていけるというようなプランはないのかということなんだ。あるいはそういうプランを募集したらどうだ。市民も色々考えや提案があると思う。こういう統合の案もあります。統合せずに小中学校最低でもとにかく残すというやり方もできるんじゃないかという案を作ってもらいたいんだよな。おたくが作らんがやったら市民から色々、全国の市民に募集をかけてやね、プレゼンテーションを募集したらいいんだ。それはどうなんだ。
（山本）
まず、この中学校の統合につきましては令和２年度に立ち上げた検討委員会の方から、やはり将来的には生徒数の減少が見込まれるので、将来的には１校の統合を行うべきであるという報告をいただいております。
そういったことを踏まえて、どういった形で進めていくのかっていうところで、確かに地域に学校を残したいっていうのは、やはり我々も一緒なんですよね。できれば残す方が良い。さっきも言いましたけれど、やはり地域から学校がなくなればですね、その地域っていうのは寂しくなっていくというか、そういったことはやはり今までの統廃合の中でも見てきてます。
ただ、今の私たち、教育委員会が考えているのはですね、ここまで生徒が減ってくる中で、室戸の中学生に一定の教育環境を作ってやらないかんがやないかと。
さっきも言いましたけど、生徒が減って、例えば中学校が複式学校になるとかですね、そこで先生が減って専門の指導を受けれないとかですね、そこについては解消していかなければならない課題かなとは考えております。小学校につきましても、室戸市が考えております適正規模には当然満たしてないんですけれども、小学校については地域に残しておくべきだというようなご意見があってですね、小学校については残しておこうと。
ただ、中学校については、専門的な教育の段階に入ってきますので、そこは室戸の中学生に対しては、市として、教育委員会として、その環境を作ってやるべきだというのが我々の考えでございます。
（参加者）
僕の質問はね、吉良川、羽根、それから佐喜浜、室戸もそう、それぞれ小中学校を残してね、それで少人数になっても教育をやっていける。そういうプランはないのかと聞いておる。
そういうプランを募集したらどうなんだ。

（山本）
やはり考え方として、中学校ではある一定規模の生徒数、教職員数の配置が必要と考えておりますので、例えば各地域に小中一貫校を残したとしても、中学校の生徒数については変わりないわけですから、中学生が置かれる環境としたら同じになると考えております。そういった意味で、こうした統合中学校によって教育環境を整えたいっていうのが考え方です。
（参加者）
前々からやっぱり地域に残してほしいということを訴えてきました。
子供たちがどう考えるかということは別として、子供たちがいやや言うたらそれはもう残らんかもしれんけれども、できれば小中一貫校ということで、大豊学園が小中一貫ときいてまして、まあそういうこともあって、先ほど言われたように小中一貫校でやったらダメなのかと、学校が統廃合したときにメリットを色々言うてくれたけど、残してやる方法はないのかと、統廃合せずに小中一貫校、避難地域のこともあるので浸水区域も含めてそれらを考慮しながらできないのか、吉良川中学校については、津波の浸水地域になって早く高台移転してくれゆうてもう１０年余ってますよね。
前年度の説明会の時に質問しましたが、今まで岬小だったり椎名小だったり、いろんなところが統廃合されてきた、岬中、東中も後で統廃合になって、その中で、統廃合した時に、人口、子供の生徒数も含めて、減ったのか増えたのか。統廃合することによって何人減ったんか。統廃合した中で、もうそれやったら高知の方へ行った方がましやという事があったと思います。例えば、椎名小から岬小から全員が中学入学したのか。それによって人口がどういう変化があったのかということをまとめてほしい。
それともう１点、この２ページのアンケートなんですが、開校を目指すというのが５年後ですね。この中学校の保護者に聞いても５年後にはおらんなってますよね、子どもが。該当しないと。それでもっとこう方法を考えてアンケートの取り方を５年先にいない保護者や子ども達にアンケートを取って参考になるのか。
（山本）
ちょっと順番逆になりますけど、アンケートについては令和２年の 11 月の検討委員会を立ち上げて、その１回目の検討委員会の中で委員さんから、その時点の保護者ということで、中学校、小学校、保育の保護者の方全員のを取っております。やはりその時点ではその方たちが、今後の学校のあり方を考えるという意味では、やっぱり対象者になってくるという風に考えております。で、その少人数でも良いのではっていうところですけれども、先ほども言いましたように、一定規模の生徒と教職員の中で中学校の教育を受けるというのは、やはり私は必要と考えるんですよね。中学校で例えば複式学級になるというところが本当に、果たしていいのか。そこはまた皆さんにもお聞きしたいところなんです。私としてもやっぱり地域に学校を残していくっていう方向では考えたいがですけれども、やはり先ほど言いました令和 10 年度の各学校の生徒数の状況見たら、こういう状況になったら学校のあり方っていうのも変わっていかないかんがやないかなという考えは持ってます。それが室戸市の中学生に対して、そういう教育環境を作ってやるっていうのは、私たちの責任じゃないかなという風に考えております。で、小規模校が悪いということではないと思います。確かにここの吉良川にしても、佐喜浜にしても、本当に地域の方と連携してで

すね、それぞれ素晴らしい教育をされゆうなっていうところは思います。ただ、もうここまで生徒が減ってきた時に、形として、学校として、中学生にとって、一定の規模っていうところは、やっぱり、作っちゃらないかんなという風には考えてます。検討委員会の時から、将来的には統合もやむを得ないっていうのは皆さんの意見だったのではないかと思います。
これまでは段階的にという表現を使ってましたけれども、そういったタイミングっていうのはいつなのかっていうところですよね。
もう 1 つ、皆さんのご意見をお聞きしたいのは、なんぼ生徒がどんどん減ったとしても、統合についてはダメなのか。やはりどっかのタイミングでこうやって統合を考えるべきなのかっていうところは、皆さんの意見が欲しいです。
この実施計画案を実施計画に作っていく上で、そのあたりをお聞かせいただけたらなという風に思います。
もう 1 点質問ありましたかね。

（参加者）

今まで統合したところで、生徒数が減ったのか、室戸市の人口そのものが減ったのか。

（山本）

要は統合することで、市外の例えば中学校とかへ出た生徒数がとかいうことですか。
すいません、それについてはちょっとまだ調べてないんで。これはまた。

（髙﨑）

調べようがないと思います。

（山本）

人口がどのくらい減ったかっていうことですかね。

（参加者）

学校を統合したおかげで減ったのかどうかっていう、何人減ったのかっていう。
統合したら、小学校が例えば 10 人おるとしたら 10 人そのまま中学校へ、統合したところの室中へ行ったんだろうか。保護者も含めて全部残ったのか、それとも、それを機に転出された方が何名いたのかという。

（山本）

例えば、岬中が室中へ統合するときに、岬中の生徒がどのくらいこう減ったのかというところですかね。

（参加者）

室戸市が人口を減らさんが為に人まちしごと総合戦略という風にして一人でも子供を増やそうとしゆうわけよね。その中で統合すると、統合したおかげで子供さんが高知の方に行ったと、保護者をついて行ったと。つまり逆効果やと。人口益々減っていきます。
そういうところがどれくらいあったのか調べましたかということを前回質問した。

（髙﨑）

質問の内容としまして、統合したことによってですね、元々出る予定でなかったご家族とかが市外に出たかとか、元々出る予定であった家族がですね、統合によって踏みとどまったのかとか、そこについては毎年小学校から中学校とか、出ていく家庭とかもおりますので、その時点でですね、入学生とか転校生とかにアンケート取ってない以上、今はちょっ

と調べようがないと考えてます。

（参加者）

それはね、何が必要で大事なことかというと、学校が１校になったときによう行かん子供がでてくる、例えば室中へ児童数が多くなってそこへはうちはよう行けませんよという子供が出来たときに、果たしてどこに行ったらいいのか。そうなった時に先程からいわれゆうように魅力のある学校というところへ、そっかあったらそちらへ移転しようかと、そちらへ入学しようということもでてくる可能性があると思うので、室戸市に１校やなくても、他にも学校があっても、（聞き取れず 49：22）ということもありますが、そういうことを考えていいんじゃないかなという風な気はします。

（山本）

今回この実施計画案を考えていく中で、前回の説明会でもありましたけれども、１つになった時に選択肢がなくなるっていうご意見は、ここ以外の地域でもありました。ただ、１番自分も悩んだとこなんですよね、なかなか解決策というか、統合中学校にした場合に、なかなか難しい、本当に大きい課題かなと思いました。

ただ、選択肢を増やすためにだけっていうことで、地域に学校を残すということは、先ほど言いました中学校で一定の望ましい規模を作るっていう考えとは、相容れない部分もあるんですよね。で、統合中学校１校になった場合に、この学校に通えなくなった生徒についてはですね、やはりその統合中学校の中でどういった対策が取れるかっていうのは考えていかなければならないという風に考えております。この不登校の問題に関しましては、今でも全国的にすごい問題になって各学校で悩んじゅう。これは大きい学校であれ、小規模校であれ、出てくる課題だと思うんですよね。

そうした時に、統合中学校作った時に、そうした子供たちにどういう支援というか、それが取れるのかっていうのは、考えていかないかんと思います。今、国の方でもこの不登校の児童生徒に対する支援ということで、いろんな形を考えています。

例えば、支援センターの機能をもっと充実させるとか、例えばパソコンとかで自宅で授業を受けるような形についても評価していくようなことを推進するというような通知が今年の３月にも出されております。統合中学校については、やはり５年後になります。

その間に、国とかのそういった情報とかに留意して、統合中学校としてできることについては、やはり取り入れていかなければいけないなという風に考えております。

ただ、今の時点で、どういうことをするのかっていうところは、答えれてない状態ではありますけれども、そこは考えてはいます。

（参加者）

課長、あんた教育の専門家でもなんでもないだろ。となりにおる人が教育の専門家じゃないのか。教育長が答えな、あなた教育のなんの経験があるんだ。こないだ別の会の時には、急に我々に教育について御託を述べるんだ。

（参加者）

あの、前回の地域説明会でされましたね。

（参加者）

マイク使って下さい。後ろ聞こえませんので。

（参加者）
じゃあゆっくりしゃべりましょうか。
（参加者）
是非、是非お願いします。マイクを。
（参加者）
マイクいりますか、この声でマイクいりますか。
（参加者）
じゃあ大きい声で。
（参加者）
前回の地域説明会の時に、各地の意見を聞いたこと、皆さんに地域住民の方々も、皆さんに回しますっていう風に聞きました。未だに結果が回ってきません。各地域でどういう意見が出たのかっていうのを自分らも知りたいんですけど、それを知るすべがない状態で、いきなり統廃合の話をされるのも困ります。
回しますって言われましたよね。はい、回ってきません。どういうことでしょう。
（百田）
その点はですね、大変遅くなって申し訳ないです。今はもう手元に、概略の形でしかですね、お届けできておりません。今回の説明会も含めてですね、前回の分も併せて、必ずお届けします。大変申し訳ない。
（山本）
去年の夏から、約 1 年間動きがなかったというところと、あと、お約束したことについてできてないっていうのは、これはもうお詫び申し上げます。今後につきましては、お約束したことについては、必ず守っていきます。どうしても皆さんと議論をせんと、こうした大きい問題っていうのは、なかなか道筋をつけていくのは難しいと思うんですよね。やっぱり行政だけで作るもんでもないし、皆さんの意見は聞かないかんし。ただ、やはり相容れん部分というのもやっぱり出てくると思います。そうしたこう議論を踏まえた上で、最終的には教育委員会の方が方向性を確定していくことにはなりますけれども、それまでには十分議論は尽くしたいと考えておりますし、今日の説明会で我々の考え方を聞いていただいてですね、さらにもう一度協議の場を待ってもらいたいと要請があれば、それはお受けいたしますのでよろしくお願いいたします。
（参加者）
それと前回、合併した後に地震が、生徒が校内におる間に地震が起きました。その生徒は帰る術がありますか。帰る手段はどういう風にお考えですかっていうことを前回も聞きました。それに関してのやつは、スクールバスとか普通に市バスとかまず通れませんよね。まず、羽根とか吉良川の人どうやって帰りますか。保護者どうやって迎えに行きますかっていう質問を前回もしたんですけど、それに関しては何も書かれてません。
こういう風に動く予定ですよっていうのすらありません。こんな状態で、子供を支えた保護者が学校へやれるんですか。
（参加者）
よろしいですか。統合した場合にその通学時間が長くなるとか、その通学の問題っていうのはもう当然出てきます。それで、津波が起きた場合に国道が遮断されるっていうのは、

これは、否定は致しません。必ずそういった状況も出てくると思います。
まずですね、学校でおる間に地震が起きて、津波がおきて家に帰れない、その場合は学校は責任をもって、学校の方で生徒の安全確保をします。それは保護者に引き渡しを行えるまでは学校の方で安全確保はいたします。その後、どういった手段というのはね、おきてみてどういった状況かによっては違ってきますが、そこはもう学校が責任を持って安全確保するという事で。

（参加者）

前回もこれ同じこと聞いたんですけど、実際問題発覚障害を抱えた子供とかが、親から離れた状態で何日間そこにおらんといかんかわからん状況で、安定しておれるはずがないのにどうやって安全を確保するんですか。

（山本）

南海トラフ地震規模の災害が起きたらですね、細かいことに手が回らない場合はどうしても出てくると思います。そこは学校の先生が責任を持ってその子の面倒をみると思いますし、今後の統合中学校についてはですね、避難場所としての指定もしておりますので、いわゆる市の災害対策本部の関わりも出てくるような、そういったことで、学校と市が連携してですね、例えばそういう支援が必要な方に対しては支援をするという形にはなります。

（参加者）

前回もその話を聞きました。やっぱり地元に住んじゅう人間からしてみたら、地元の学校におったら、たとえ橋が崩れても歩いて迎えに行けるよね、道が寸断されてもどっか迎えに行ける方法はわかるよねっていうのがあるので、地元に残してもらいたいっていう気持ちがあります。それと、今現在室戸の市内で、中学生、小学生の子、学校に行けなくなってる子供ってどれぐらいの割合ですか。給食だけ食べに行ってるとか、30 分だけ登校してるとかっていうのは含まないで。そういう子たちがいったい何人いるのか。

（山本）

これは、毎月教育委員会の方には人数については報告があります。3 日以上休んだ児童生徒についてはですね、まず、小学校、中学校合わせまして 5 月分の結果としたら 39 人ということになっております。

（参加者）

その中の一部の生徒、教育研究所の方に通われてる方がいますよね。で、吉良川の中学校だけで見ても室戸から通ってる子供がいらっしゃいます。羽根に関しても、室戸の学校に馴染めなくって、わざわざ羽根に引っ越して羽根に通ってる方もいらっしゃいます。
室戸岬の方で、室戸中学校が嫌やったんで佐喜浜中学校に通ってた方もいらっしゃいます。統廃合になったとき、そういう子供たちこれから先出てこないとは限りませんね。室戸中学校に通えると思いますか。

（山本）

それをね、今ここで議論しても始まらないんです。例えばそういうことが起きるとどうするかって。
やはり、例えばそうした学校に通えなくなった子供については、やはりこう新しい統合中学校としてこういった体制が取れるかっていうのは、それは考えていきます。先ほど言いましたように、その不登校対策等についても、やはり国もいろんな形を今変えていきゆう

がですよね。そういったことで、例えば統合中学校で取り入れることについてはやっぱり入れていく必要がある。
本当いろんなケースを言われるがですけど、それをね、今の時点で１つ１つなかなかその場合はこうです、この場合はこうですっていうのは言えないんですけども、そういった状況が起きた時に支援できる体制っていうのは、普段から作っておかなきゃいけないなという風に考えています。

（参加者）

それの意見ですけど、私の息子２人ですが今、吉良川の中学 1 年生と吉良川小学 6 年です。
今日 2 人から聞いた生の声です。学校は 1 校に全部なった場合、僕たちみたいに、あの、特殊学級に在籍してます。特殊学級にも居ったり、下の子は居れなかって、普通の通常の学級にも居れない。特殊の学級にも来れない。友達とも一緒におりたいんですけど、なんか 1 人で集中したりとか、声がすごい反響とかは苦手な子供なんです。その子が 1 人で居れる時間をっていうので教室を、別の教室を分けて作ってもらってるんです。
で、上のお兄ちゃんは、特殊学級の方で在籍はしてますけど、その子たちが、今日私がここの会に行くっていうのを聞いて、１校になるってことは僕たち弾かれるってことって聞いてました。

（山本）

わかります。やっぱりそうした子供への支援として新しい学校にも、そうした教室をですね、校内適応教室とかっていうことですかね。そういったところは、設備は、整備はしていきますので。

（参加者）

１校になった場合、そういう子供たちがどんどん増えてる状態じゃないですか。
その子たちが結局、さっきもおっしゃったように、ここの学校は駄目だから今こっちっていう選択肢がいまある状況なんですよね。その選択肢がないなるってことは、僕たちっておる場所がないなる。そこをお母さん言うてきてって言われた。これが生の声です。

（山本）

わかりました。その選択肢がなくなるっていうのは、やっぱり自分の中でもすごい難しい問題なんですけれども、やはりその前に、室戸の中学生に望ましい学校規模の教育環境をまず与えてやるのが我々、すいません、与えてやるのはちょっとダメですね、作ってやるのがやはり我々の責任かなと。そうした学校の中で、そういった支援の必要な子供についてどういった形が取れるのかっていうのは、それは考えていきます。先ほど言いましたように、その教室とかについても当然整備をしていきますし。あと例えば通学、スクールバスとかそういった利用がなかなか難しいお子さんとかも出てくると思います、そういった時に、例えばそのスクールバスを使わずに公費でタクシーを使ってもらうとかですね。そういった対応っていうのはやはり取れるんじゃないか。そうしたことを今から、今年から 5 年かけて、先ほど言ったあり方検討委員会とか開校準備委員会の中で、皆さんの意見を聞きながら作っていきたいなという風に考えています。

（参加者）

先ほど言ったことなんですけど、実際問題うちの子供は不登校なんです。教室に入りませ

ん、学校に行ってますけど、教室に入りません。別室登校してます。学校に行く時間その日によってバラバラです。バス、タクシー、まず無理ですね。
個人でっていうのはまず難しい子供も多いのもわかっていてもらいたいです。
先ほど言われたところの子供さんなんかも多分そうやと思うんですけど。いきなりじゃあタクシーで行ってねって言われても、うん、て言える子はいないと思います。

（山本）

今はそしたら徒歩か自転車で通われている。

（参加者）

そうです。近くやき行けてるんです。近くにおるき。
自分が、あ、今やったらいけるなっていうタイミングで学校に出てるんです。タクシーでって言われました。タクシーが来てる間にやっぱり無理ってなる子供もいます。

（山本）

そこについては、ちょっと今日の時点では課題として持ち帰らせていただかないかんかなと。なかなかその、本当にこう、100 何人もいてですね、本当に 1 人づつの個々のケースによって対応できる、やっぱりできない部分も出てくると思うんですよね。そこはやっぱり保護者の方のお力を借りたりとかですね、やっぱりそういったことは必要にはなってくると思います。なかなかこれ全部のケースについて対応するというのはちょっと私の方からは言えませんが、できるだけ取れることについては可能な限り取り組んでいきたいと思います。

（参加者）

それも踏まえた上で、いきなり令和 10 年に統合しますっていうのではなくって、整理をしながらの統合を考えていただきたいなっていうのを前回も言ったんです。でも、それに対する返答っていうのは結局きてません。
統合ありきじゃなくてまず話し合いをして、皆さんの意見を汲んで、すり合わせをして、これでいかがでしょうかからの統合ならわかる。統合ありきで話が進んでいるから、違うでしょっていう。

（山本）

令和２年度から、検討委員会を立ち上げて検討してきました。その中で一定将来的には統合するというような方向性っていうのは、そこでも出されちゅうがですね。それを受けて教育委員会として、どういう形が望ましいのかっていうのをお示しをしてきました。それが、去年の基本計画でありますし、今回の実施計画案でありまして、ただ、やはりこうした問題を考えていく上で、ある程度方向性をまず行政が示して、それに対して皆さんのご意見をいただいて、その上で決定していくという形が必要なんですよね。
例えば令和２年当時で、早く統合するっていうような議論はされてなかったと。時間の経過とともに統合に向けて、どういう形でいこうか、いつ頃目途にするかっていうような、日は越えてきているという風に私は考えておりますので、今日いきなり統合しますという話で持ってきたということでは考えてないんですけれども。そこを、そういう風に捉えられているのであればですね、これまでの説明っていうのが不足しているのかなという風に感じます。

（参加者）
実際問題、自分らが子供の頃から室戸は最終的には室中１つになるやろっていう話はありました。生徒数そんなに多かったとかじゃないので。ただ、私が中学校行きよったころやき、もう 40 年前ですかね。その頃からそういう話が出てきてるのに、なぜそれまでの間にすり合わせとかしてこんかったがやろなっていうのはあります。
（山本）
はい。40 年前からなかなかすり合わせするということにならんと思うんですけども、やはりこの令和２年当時ですね、やはり災害からまず子供の命を守るっていうところもあったと思いますし、児童生徒数の減少というのは顕著になってきたと。そうした時に将来的な学校のあり方を考えないかんということで、この令和２年度から検討委員会をたちあげています。それまでの各学校はね、それぞれその各学校の状況に応じて統廃合を繰り返してきた歴史はあると思います。今回は、この４つの中学校を１つにしようという、今までにない形の話にはなっておりますけれども、40 年前からなぜしないかっていうことについては、その都度その都度必要な学校については統廃合を検討して、統廃合を進めてきたという経緯があります。
（参加者）
統廃合ありきなんだと、おたくらの書いてある全部読んでもね。令和 10 年４月１日から羽根中学校、吉良川中学校、室戸中学校、佐喜浜中学校を統合して、新たな統合中学校として開校しますよと、断言してある。それしか書いてないんだよ。だから我々反対する。いま女性の方も言っておったけどね。あなた方は適正規模の集団になったら、適正規模の学校、学級というのを考えておるんだよな。しかし今はもうそんな時代は過ぎたわけよ。こういう適正規模の学級なんか作れない状況が出来てきたわけだろ。それを無理やり統合して １ ヶ所に、あなたらが考えている適正規模の学校を作ると、べっちゃんこにという、やっとるわけよ。しかし、少人数の教育だって、むしろ少人数の学級だからこそ出来ることがいっぱいあるわけよね。メリットはいっぱいあるんだ。要するに私が言ってるのは、何してもね、個別的に対応できるわけよ。人数が少なかったら。集団で 40 人、50 人の学級であればね、個別的な対応なんかできないよ。授業が終わった後で、ちょこちょこと生徒と話をするっていう程度しかできない。授業中は全然、個別的な教育はできないんだ。少人数であり、はっきり言って少なければ少ない方がね、学校の教師は子供たちの状況を本当に一生懸命できるんだ。効果があがるんだ。大人数だったらできないんだ。
あんた課長、教育委員会に最近見えるようになって教育の専門家みたいにべらべら喋ってくるけどね、あんた教育の専門家でも何でもないんだ。教育の専門家を呼んで来いここへ。教育委員会か何かやっているんだろ。その中には専門家がおるんだろ。そういう人を呼んできてここで話すならわかるけど。おたくらの話を聞いてどうして納得できる。
少人数だったら教師はできないような、そんな言い方をするのはおかしいじゃないか。あんたやったことあんのか。
（山本）
構いませんかね。私は学校教育課長として、この室戸市内の学校のあり方については、業務として、自分の責任として取り組んでおります。皆さんのご意見をお聞きしたいのはですね、例えばこの、本当に令和 10 年度のような各中学校の生徒数の状況の中でも、やっ

ぱり残すべきというお考えなんでかすね。やっぱり最終的に統合はダメなのかというお考えでしょうかね。

（参加者）

すいません。保育の子供がいる親なんですけれども、今回の統合実施目的について私は賛成で、統合をしていただきたいなと思っています。というのは、やはり地震から子どもの命を守るっていうのがやはり緊急度の高い目的だと思うので、私としてはスピード感を持って早く統合していただきたいなという思いがあります。
ただ、過去１年間活動できなかったっていう理由も知りたいなと。

（百田）

先ほど、あの●●さんからご質問ありましたが、山本課長がですね本当にこの教育内容についてよく勉強してですね、その職責を私は全うしていると思います。
私は 40 年間、中学校の現場におりました。東日本大震災覚えています。３月 11 日水曜日です。その時には、私も約 200 人の子供たちがおりました。日が変わるまで、最後の親がくるまで市役所から水をもらい、食料をもらい、毛布をもらい、日が変わって最後の子どもを頼みますというて、渡してきました。私はそういう経験がございます。ですから、今の山本課長もですね、そういった経験はございませんけれども、これからの子供たちの教育をどうするのか。何度も言ってますように、小規模の子供たちには本当に迷惑を、子供たちに頑張っているんですよ。先生方も一生懸命やってます。けれども先生方の努力と子供たちの努力だけでは解決できん。例えば、中学校が複式になったら全部の教員６人なんですよね。校長は授業ができませんので、５人が９教科を担当するわけです。そうすると４教科は免許外なんです。専門外ですね。ところがこの複数の状況になったら各教科に２人の教員が配置されました。だから、25 人の教員が、12、13 人ずつ見れるんですよね。
さらに教室も構えて教員も待機できるわけですから、そういったところはこれからもですね、協議の中でですね、人数は一定の規模になりますけれども、できるだけそういった配慮をしたいなと思ってます。それから９ページにもございますけれどやっぱり学校というのは、こういった様々な集団のなかで認め合い、協力し合い切磋琢磨することを通じて色んな力をつけると。社会性を身に着ける。こういう大きな学校教育の目標がございます。ですから、今ずっと説明させていただいておりますけれども、そういったベースに立って子供たちの室戸の子供たちの力を伸ばすためにはどういった具体的な方法が１番良いのかいうことで、検討させていただいてるところでございます。他にも、様々なご意見があるかと思いますのでお聞かせていただけたらありがたいです。

（山本）

先ほどの １ 年間の動きがなかったというところですけれども、これについてはこの間に、まず施設の高台移転の計画を作って、実際に統合中学校としてスタートできるのは、いつかという、このスケジュールを作るっていうところもあったと思うんですが、時間が掛かり過ぎているっていうところは、これはもうおわび申し上げるしかないと思います。
それと、こうした問題を考える時に、正直自分も考えるがですけど、統合中学校作って、例えば荒れたとかね、不登校になる子供が多く出たっていう、ちょっとそんな不安とかね、それはどうしても考えてしまうんですけれど、生徒がどんどん減ってきゆう中で、室戸市

の中学生にとって、どういった学校が良いのかっていうのは、やっぱり今関わっちゅう大人が責任を持って判断してやるべきじゃないという風に考えてます。当然、賛否両論あってでですね、やっぱり相容れない部分あると思うんですけれども、最終的には１つの方向が決まったら、今度はその統合中学校をどんなに良い学校にしていこうかみたいな。そこで皆さんのご意見をいただいて進めていくべきかなという風に自分は考えています。賛否両論は必ずあることやと思います。だけど、そこで意見を出し合って１つの方向性を見つけていく、我々が責任を持って判断しちゃる。そういう風に考えておりますのでよろしくお願いします。

（髙﨑）

他に質問のある方はございませんか。

（参加者）

●●です。統廃合した後にいろんなメリット、デメリットがあると思うんですが、大体メリットのところを主張されるわけですよね。例えばスクールバスは授業計画に乗ってないと思うんですけど、それらあもどうせ金額に入ってくると思うし、人件費も当然入ってくると思うんですが、ただ、その学校が統合した時に、教員数が減るとかいうことは、これはわかるんですね。国会でどうなるのか、文部省の方もどうなるのかわからんやないですか。そういうことも変わっていきゆうわけですよね、時代とともに。今後、例えば室戸市１校になった時に他の市町村、これ義務教育は小中学校、各市町村に１校以上はいるということになるんですかね。それはなんぼ人口が少ない町村でも義務教育は小学校中学校は１校ずつあるということですか。

（山本）

最終的にという事ですか。

（参加者）

そうです。

（百田）

それはですね、義務教育は責務ですから。当然学校は設置するわけです。ただその設置の仕方が色々あります。ですから県内で日高村では組合立なんです。土佐中もそうです。それから、愛媛では日本一長い学校って紹介されますけど、そこが愛媛の子供たちと、宿毛の子供たちがですね、県境を越えて学校へ通っています。いずれの形にしろ、この義務教育というのは小学校、中学校を通してこれからの社会を担う子供たちですから、責任をもってやらないかんと思っております。

（参加者）

そういう中で先ほどから反対意見と言いますか、統廃合を考えてもらいたいという意見の中には、どうやったら児童数が少なくてもやっていけるか、統廃合ありきじゃなくてどうやったら残していけるかという私は考えなんですが、やっぱりそっちの方も考えてもろうたら、その中でやっぱりいかんかということになるかもわからん。

一つ例を挙げますが、吉良川保育所は、公立と私立とあったんですが、私が（聞き取れず）の時に、今の吉良川保育所のところへ建ったんですが、そこへ第一保育所を統合しようということになって統合しました。統合する条件としては、道もつけますということでした。車で保護者が小学校の裏は回らずに道をつけると、それが去年の夏にできました。もう10

年も余りました。
例えば、今課長が言われるようにいろんな約束をされても、なかなか思うようにいかんと、そのうちにやめていったらという可能性もある。だからそういうこともほんまに引き合いができるのかどうかと。ほんでもう一つは中学校は岡村教授が津波がくるいうてから 15 年ばあになると思いますが、未だに中学校は避難路は上から潰えてきたら逃げれんていう状態でずっと放置されています。去年もここで会しましたが、小学校と保育園とあって、ここが避難場所に、小学校が１５ｍになってるんですが、津波からそこへ逃げてきた時に逃げたいというたら高台へ逃げれる。その高台をそこの公園を何とか整備してくれというても、それも無理やと。なんで出来んかというたら、まだ大丈夫やと思うと。そこまで逃げんでも大丈夫やと。そんな確約が誰が出来ますか。津波が来だしたらみんな高台へ、高いところへ逃げたいと思う。そういうところを考えるとしたら、こんな補助金を使ってやることも必要になる。もっとせないかんこともあるんじゃないか。そういう気もあります。統合自体が悪いとは私も思いません。良いところもあると思います。けんどメリット、デメリットそれぞれあるのでもうちょっと議論してもろたらどうかと思います。

（山本）

教育委員会の方としたら、この方向性というのを現時点では考えています。この方向性で、皆様方のご理解をいただきたいという風に考えております。それでまだ議論ですね、そういったものが足りないというのであれば、それはまた地域の方へ来てですね、また協議の方はさせていただきたいと思います。で、吉良川中学校は、やはりは厳しい状況だと思います。その津波が起きた時に。言われるように、学校の裏の避難場所についても、急傾斜地の指定も受けておりますので。やはり、早くあそこの場所を変わらなければならないという風に考えております。変わる形として、この統合中学校へ吉良川中学校が行くという形を今教育委員会では考えているというところで、少人数でも、良さっていうのは分かっておりますけれども、やはり私たちの考えの根底には、やはり一定の生徒数、一定の教職員数の配置が確保できた学校で中学生を学ばせてあげるところは、持っているところでございます。

（参加者）

最後に、私個人的と、それから地域としては、学校は残してほしい。だから小中一貫校にして、ここに、小学校のところへ昔あったように中学校を持ってきてもろうて、生徒数は少ないけれども、ここで小中一貫校をやってもろたらと私は考えております。それは歴史、文化を継承するためにも、そして地域が残っていくたためにも絶対必要ではないかと思う。ただ、それが原因で、子供たちが不自由な思いをしたりとか、いろんな思いがあったら、それはそれでまた考えないかんことだと思いますけれども、地域としては残してほしいとは思います。

（山本）

それはご意見としてお受けしておきます。

（参加者）

佐喜浜の子供さんたちが、学校へくる場合、佐喜浜から室戸までの間って、今でもそうでしょうけど、波が上がったり、その中を車で、今波が下がったから今通って、またその車のところへ波が上がったっていう状況を聞いてるので、そういう状況に陥った時に、子供

たちがスクールバスで行くってなった場合、避難路というのはあるんでしょうか。佐喜浜から室戸市内までの行く間。あと今●●さんが言われてた中に、吉良川中学校の西山へ上がる避難道みたいな、山道を付けちゅうがですけど、それを例えば、この間うちの子供が先生たちと上がったときに、炭焼きをされている方とかが伐採した木とかが、そのままもう道へ崩れてたり、足の踏台みたいなの作ってくれてるそうなんですけど、それももうぼろぼろで、かなりの急斜面で上まで上がりきれない。もう途中で引き返してきたというのが現状なんですけど、そういう避難路っていうのは改善したりとか、つけたりっていうことは考えてますか。

（山本）

木とかがあるっていうのは避難路ですかね。わかりました。そこは防災対策課の方に相談を一度してみてください。避難路整備についてはですね、基本的には住民の方とか、自主防組織とかですね、そういった方に管理はお願いしゆうがですけれども、どうしても地域の人で難しい場合については、それは防災対策課の方で対策はしてくれると思いますので、そこは 1 度相談をしていただけたらと思います。それと通学路がやっぱり国道は、佐喜浜で言えば、夫婦岩のところは大雨とか、台風の時にもやはりこう遮断されると。室戸市の国道については、どこの地域でもそういったことはありうると思うんですよね。そうした時にやはり通学時の課題というのあると思います。やっぱりちょっと学校から帰れなくなるとかですね、遮断されて。その国道の改良については市としても、国の方にはその都度要望はしています。そうした中で、なかなかこうすぐにということにならんですけれども、そこはもう要望しているところでございます。通学路の安全確保のことについてはちょっと班長の方から。

（髙﨑）

通学路の安全確保については、スクールバス等での運行について、今スクールバスの業者さんにも委託しておりますので、今運行している場所のですね、近くにどういう避難場所があるのかとか、そういった研修を行うのはもちろんですけども、先ほど言ったような佐喜浜の国道が通行止めになるとか、そういう天候によってですね事前に予測できることについては、様子見ながら行けるとこまで授業やったりとか、やってるとは思うんですけど、統合中学校とかとなればですね、事前にそういうことが予想される場合は、先に学校をそもそも休校にするとかですね、事前に早く切り上げて、そういうことになる前にスクールバスで送り届けるっていう対策の方が、現実的かなと思ってます。あとは、もう実際起きてしまったら、土木とかにですね、1 日でも早く復旧してもらうしかないと思ってますのでスクールバスの通学上の安全対策でいうと。

（参加者）

それは学校に到着しているっていう前提でっていう事ですよね。その途中ですよ。その途中の道路、国道のところで津波が向こうから来てますとか、道路が遮断されましたってなった場合に、子供たちはまず安全な場所に避難させるってなった時に、その場所を確保しているかどうかをお聞きしています。

（髙﨑）

スクールバスで避難する場所というか、最初言ったように運行中にですね、例えば津波が津波というか、地震が起きた場合にどこ通ってるかによってですね、ここに逃げましょう

とかっていう講習はですね、絶対必要だと思ってます。1 番近い避難場所ですね、そういったものをスクールバスに積んでおくとか、運転手さんが、自分がいつも通る場所については、どこに逃げたらいいか理解しておくっていうのは、必要だとは思っています。スクールバス用に特別に避難場所を作ってるっていうことは、今のところはないです。
地域の避難場所に、どこかに逃げていただくという対応になると思います。
回答としてはよろしいですか。
他に質問のある方、いらっしゃいますか。

（参加者）

羽根の小学校の歩道橋の南側にある危険な場所であるとか、室戸中学校はまた海岸にあるとか、あれについての対策やいうことは、1 番先に考えないかんことやろと思ったけど。市長の説明会の時に、私が何回も市長に請求したわけですけれども、そんなことも碌にやらんとやね、統合統合いうて全部統合するやいうていうことをせんと、羽根は羽根で中学校が山の上にあるから小中一緒にしよう。吉良川も小学校はこんな素晴らしい所にあるから中学校をここにしよう、小中ここにしようというようにして、東のことは僕はちょっとわからんけど、そういうようなやり方でね、皆の意見もまとめていくという方法がな、それをまだ統合統合言うてね、羽根から吉良川からバスで送ってくれるろうけんどよね、皆貴重な時間を割いて、私たちの時間を崩して、送り迎えもせないかん場合も出てくると思うし。これは十分考えてほしい。
ほんじゃき、この吉良川の東の川ゆうて川が二つあって、東の端の川のあたり、前の岩貞のスタンドがあるところ、あそこまではね小学校中学校で通いゆう子は碌におらんみたいなきね、やっぱり少なくても吉良川へ残して、小中を一緒にして、前はうちの息子がおるときは少年野球も 2 チーム出てたはずですけど、今 1 チームも結成できん吉良川になっちゅう訳よ。ほんじゃきもうちょっとね、ただ減って減ってしょうがないきいうことだけじゃいかんぞ。よう考えてみてほしいな。

（山本）

地域に学校を残したいという気持ちっていうのは、十分わかっておるつもりでございます。そうした中で、これだけ生徒数が減ってきている中で室戸市の中学生にとって、どういう学校の形が良いのかっていうのを考えた内容が、今回の実施計画案に載せている内容でございます。
こうした案につきましては、皆様方からいろんなご意見を聞きながら決めていきたいという風に考えておりますので、ご理解よろしくお願いいたします。

（参加者）

今回の説明会は、明日が羽根って言われたと思うんですけれども、今後のスケジュールも教えていただければと思います。というのも、今回参加した市民の方を見ると、やっぱり子供を持ってる親御さん少ないなっていうのが 1 番の問題なのかなと思うんですけれども。スケジュールに合わせて、このスケジュールの共有の仕方っていうのは、広報以外でされているのか。されていなくてもする検討というのはしているのかを知りたいです。

（山本）

今後のスケジュールですけれども、こうした日にちと場所をこちらから設定した説明会っていうのは今回で終わりです。ただ、先日佐喜浜をやった時も、もう少し議論したいとい

うことで、佐喜浜についてはこの７月下旬にまた再度協議することとなっております。それで、吉良川地区につきましても、例えばもっと多く保護者が集まる形で議論したいという要請があればですね、それは答えていきますので、ぜひまたそういう要望があればまた、学校教育課の方にご連絡をいただければ、そこは協議の場をもっていきます。

（参加者）

今後、統合に向けた学校作りについて、構成メンバーの中に保護者がいるんですけれども、どういう形で話し合いをやる計画なんですか。

（山本）

基本的には、その統合する中学校区の地域の保護者の方に集まっていただいて、その他の学校関係者、ここではもう先生方とかも入ってきます。まだ具体的なメンバーの方はまだ作ってないんですけれども、やはりこう１か月か２ヶ月に１回ぐらいのペースでやはり１年半ぐらいですかね、そこをかけて、まずあり方検討委員会というのを作っていきたいと考えています。答えになってますか。

（参加者）

最後に一言言いますけど、今日は市長は来なかったわけよね。どうしてこんの。だってあんた、教育環境の整備というのは教育委員会の職務じゃないぞ。教育委員会じゃなくて首長の責任やろ。学校建てたり、廃止したり、統合したりするのは。建てたものを管理するのは教育委員会、運営するのも。やき、地方教育行政の管理及び運営という法律を知ってるだろ。そこではっきり、例えば教育委員会には契約する権限もないし、土木工事でもなんでも。契約する権限もないし、予算を執行、編成することも権限がないんだ。予算の執行の権限がないと書かれとるんだ。教育環境の整備事業は全部首長の責任なんだ。どうして首長が出てこないんだ。おたくらが計画して、おたくらが業者に発注して予算を設けてやるつもりか。そんな権限がないということはね、もう何十年も前の法律で決められたんだ。市長を呼んできて説明させないかん。

（百田）

それについてお答えします。３月の議会で説明しましたが、平成27年の学校関係として、地方教育行政に関する法律で、今●●さんのご指摘の通りです。今は、私どもは教育委員会として、いわゆるこれは組織上、独立した組織ですから、教育委員会として、案を今お聞きしながら作ってるんです。私たちには、この予算の執行とか予算の計上とかいう権限はございませんので、この計画が確定しましたら当然市長と相談を、協議をしてですね、予算をあげて頂くと、それを議会で承認して頂くと、そういう風になるかと思います。ですから、今の段階は私共教育委員会が責任を持ってですね、それぞれの意見を聞いてそういった予算的なこととか、そういったものをですね具体的に要請をすると、そういう立場でございます。

（参加者）

何を訳のわからんことを言ってるんだ。教育委員会は、学校の環境整備やそんなのは、権限はないんだ。意見をいうことはできるけどね。大事なことは教育委員会はね、教育内容なんだよ。教育委員会が全体的に任されているのはね教育内容だよ。教育内容で勝負せないかんと、おたくらは。室戸の小学校、中学校、ここで勉強したらね、ものすごく成績が良くなるとか。立派な人物が出てくるとか、そういう教育内容を担当してるのが教育委員

会なんだ。教育環境の整備は首長の責任なんて全国全部一緒なんだよ。昭和 32 年にこの法律できちゅうがやき。

（山本）

市長の権限に属する業務については、市長から教育委員会が補助執行を受けているという形で進めてます。だから教育委員会で学校を改修したりとかですね、予算を執行したりとかしてます。補助執行の形で行っているということでご理解いただきたいと思います。この話は、●●さんはこの前からずっとこうやりゆうがですけれど、あくまで権限は長にあるがです。けんど長が教育委員会にその業務を補助的に執行させるということをやっているということでご理解お願いします。

（参加者）

そのことも委員会以前に決着ついとるんだ。この補助執行はね、そんな任意の規則でね、ごく限られた範囲の簡易なことしか補助執行は許されてないという事をちゃんとわしが見せちゃっただろ。

（髙﨑） 1:46:31

すいません。構いませんか。●●さん。

（参加者）

確かに不備がありましたと、あんた委員会ではっきり言ったじゃないか。補助執行出来るものと出来ないものがあるんだよ。

（髙﨑）

構いませんか。その市長の権限に属する項目については、今回の会とは違う内容になってくると思いますので、それは別途市長部局と協議が必要だと思います。

今回の吉良川地区、統合の実施計画案を受けてですね、市民の方がどういう質問を持ってるかとか、どういう不満を持ってるかっていう会ですので、今回市長の権限について追及する場ではないので、吉良川中学の統合に対してですね、質問のある方、他にある方いましたら手を挙げていただきたいです。

すいません、別の場所でそれは争っていただきたいと思ってます。

議場で構いませんので。時間となりますので、他に質問ある方。

（参加者）

浸水時なんですけれど、小学校が吉良川以外は浸水域に入ると。中学校は、羽根中学校以外は浸水域に入るということですけども、羽根についてはその中学校に、小学校とか保育園が入っていくのは改修をしないとすぐにはその中学校、いきなりは無理だと思うんですけど、吉良川について中学校が小学校に、もし早い段階で統合前も移ることは可能なのでしたら。どうなんでしょうか。地震がいつくるか分からないので。

（髙﨑）

可能か不可能かという話で言いますと、施設の増築さえしてしまえば可能になってくるとは思います。

今の現状ですと、例えば空き教室であったり、色々作品とかを展示している教室とかはありますので、それを片付けたとしてもですね、せいぜい３教室とか、４教室ぐらいあるかもしれませんが、中学校のクラス３程度、あと特別支援学級とか、先ほど言いよったような校内適応教室であったりとか職員室を構えるとなると教室数とかは現状のままでは足り

ない状況となってます。ここに移してくるにしても、何かしらの施設整備は必要になってくるという現状です。

（山本）

中学校の避難、確かに大事なところなんですけれども、例えば小中一貫校とかそういった整備方針がない中で、今の時点で中学校を小学校に移してくるっていうのは考えていないところでございます。

（参加者）

統合した場合のデメリットを教えていただきたい。統合した場合に子供が受けるデメリット。これ教育のプロやったら考えないかんですね、当然。

（百田）

まず、これは他の地域でも出ましたけれども、通学距離もですね、長くなりますので、時間がかかります。これが 1 番心配されているデメリットになります。それから、今ご意見いただきましたが通学中の安全とかそういったものがございます。

それと、それぞれの地域でいろんな伝統文化をやっておりますけれども、そういった地域での学習の面をですね、今まで通りに行かない場合がございますので、地域共同本部とか、学校運営協議会がありますので、そういったところをですね、ご支援いただいて、地域の学習をやっていかなければならないと思っております。

それから学習面、これも先ほど言いましたが今どんどん 1 学級の人数が減ってきております。私教員始めた時は 1 学級 45 人でございました。今 35 人から、実際室戸は約 25 人ぐらいになるんですけども、この 25 人に対して 2 人の教員がつきます。そうすると半分になります。で、それでも 1 人が 12～3 人見なくてはならないという、そこのところはですね、子供たちの 1 学級３～４人というところとは、十分目が届かないという場合もございますが、そこは支援員、現在それぞれの学校にですね、配置をしておりますので、少しでも子供たちに目が届くという形はですね、とりたいと考えています。

（参加者）

今現在室小と室中は統合しちゅうがやけど、室小室中が今どういう状況におかれているかご存知ですか。室中の保護者、小学校の保護者は統合せん方がいいと、なぜならめちゃくちゃやねん、今。それをわかっちゅうかわかってないか。教育委員会が。これわかってないがやったらプロじゃない。教育委員会じゃない。なんで校区外に通う子が多いかそれを理解してない。それと、災害におうた場合には教師が責任を持ってやるというけんど、教師も一被災者よね。被災者やろ教師も。それ、東日本で大問題やったろ。教師が被災者やに、ずっと面倒見ないかん。それと、あそこに移転した場合は、全然知らん他人があそこへ行くことになる。自分らの全然知らん人間が。そこへ子供をずっと預ける。そういうことを、自分らの子供がそこへ置かれる状況を考えれるか。考えれるか。自分の子供が、全然知らん他人の中に囲まれておる。東日本で子供らどういう風になったか、それをわかっちゅうか。

（山本）

それは仕方ないがやないです。災害が学校で起きてよね、そこで学校で、先生が。

（参加者）

今ならここで起きた場合、地域の人間がなんとかできるやろ。知っちゅうおんちゃん、お

ばちゃんらが一緒になんとかできるやん。けど全然知らん大人の中に置くわけで。あんたらどうやって責任取るそれを。

（山本）

それは学校の先生が責任を持って、学校で居る間はみます。

（参加者）

自分のお子さんがそういう状況でも言いますか。学校の先生が責任を持つって言いますけど、さっきおっしゃったように、あの被害者もいますけど、学校の先生自体が亡くなった場合はどうします。子供たちだけになって。そこが避難場所となった場合でも、学校って大体地域の方の避難場所にもなってます。その場合、子供たちだけではなくて、避難してきた方たち、住民たちとごっちゃになります。そういう時に先生って言いますけど、先生が子供たちの面倒見ますか。

（山本）

それは、先生がみるしかないがですよ。学校現場では、

（参加者）

どればあ現場に負担をかけるがで。なんの勉強したが東日本から。

（山本）

学校におるときに災害がおきたら、学校の先生が子供の命を守らなどうするがです。

（参加者）

ここにおったら地域の人がなんとかできるやん。一緒に。全然知らん人間が面倒見れるかいう話やろ。

（山本）

それ、災害に特化したことで言いゆうがですよね。ほんで、私たちはやっぱり室戸の中学生にとってどういう教育環境を作るのがいいかっていうところの方向性を出しちゅうがです。例えば災害が起きたときに、全然知らん人の中で過ごさないかん。それはどうしても仕方のないもんもあるがですよ。ああいう災害時では。

（参加者）

それを決めゆうあんたら、腹切ってもらうで。もしそういうのがあったら俺は絶対許さんで。そういう、もしなんかあったら、東日本の子らどういう目におうたか、もう１回考えてんや。

（山本）

やきその災害時に、やっぱり安全確保のためにどういうことするかっていうのは、それはもう学校は決めていかないかんですね。それを決めていきます。やっぱりなんかあった時になんか責任取れ、それはね。

（参加者）

それ責任取れというのは、それ学校に責任取れとおっしゃるんですか。

（山本）

まずは学校の責任になります。学校が、先生が生徒の安全確保をするっていうがは。

（参加者）

学校の先生も一人間ですよ。一保護者ですよ。家庭持ってますよ皆さん。わかってますか。

（山本）
でも、それはもう仕事やないですか。先生にしたら。
（参加者）
じゃあ自分がそこの場に行って、自分が知らない子供たちを見れますか。全く知らない子供たち、認識のない子供たち、その中に発達の子供さんもいらっしゃる。五体不満足ではないですよね。何かしら怪我して運ばれてくる子供がいますよね。
（山本）
災害時は非常時なんですよ。ほんで、その準備とかもできてない中で、やはりそこで先生なり大人が見ているっていうことになると思うんですね。先生がおらんかったらっていうことですけど、やっぱり学校はある間は先生がおりますきね。
（参加者）
先生たちが被災されたらどうされます。
学校は安全とは限らないじゃないですか。建物が壊れる、東日本とかでも学校が流されてなくなった。ガラスが割れて子供たち、教師の全員がそういう怪我を持ってる状態ですよね。
そういう状態でも教師に面倒見ろって言いますか。
（山本）
それはそこにおる大人が手伝うということもあると。やっぱり先生だけで無理があったらそこにおる大人、当然市の災害対策本部っていうのはこう時間がたてば入っていきますんで、そこを言われると、その災害を受けて先生が怪我して動けんなっちゅう、誰が見てくれるんですかっていう話ですけれども、それはもうその状況に応じてその世話ができる人はする。助け合うということしかないと思うんですけれども。これは本当に学校だけはないと思うんです。いろんな場面で災害が起きた時にやっぱり助け合いっていうのは出てくると思いますので。
（参加者）
それはわかるんですけど、それをする場合、本当に非常事態の場合に発達障害の子、パニックを起こします。ただ、地元やと知っちゅう人がおるので、その人の顔見ると落ち着いて、生活ができるようになったりもします。室戸市内に行った場合、吉良川の人は周りの人ほぼ知らん状態です。発達障害もっちゅう子はパニックを起こして、どこで安心できますか。先生はまだ信用できない状態かもしれません。やき地元に残してもらいたいっていうのが保護者の考え。
教育的なところっていうのが出ましたけど、実際あのうち香南市から吉良川に戻ってきました。香南市の方が生徒の数多いです。多い分荒れてます。成績、はっきり言って吉良川の方が全然いい。人数が多くなったからといって良くなるとは限らないです。実際、野市中学も荒れてました。昔は赤岡中学も荒れてました。野市東小学校、校長先生が生徒に、「おい、給食持ってこい。」放送で呼ばれるような学校でした。
人数が多くなるからっていって全部が全部そうなるとは限りませんけど、荒れる場合もあるんです。その辺りはどういう風にお考えですか。
（山本）
それは荒れる場合が無いとは言い切れんと思います。そこ否定できません。ただ、やはり

そんなことがないように取り組んでいくことが大事やと思います。
（参加者）
先ほど言われました室戸小学校、室戸中学校、今現在そういう状態があるんです。
現実問題あるんですよ。いじめられてる子いるんですよ。のけ者にされてる子がいるんですよ。そういう現状はお分かりですか。
（山本）
それは、内容については学校とか支援センターの方とかとの連絡協議会とかでは情報を共有しちゅうがですけど、これはやっぱり大規模校、小規模校ということではないと思うんですよね。小規模校の中でもそういった話も聞きますし。今の室小室中は荒れちゅうき、この統合問題についてはやっぱり考えれないという方には向かないと思うんです。まず、私たちはこの室戸市の中学生にとって良い環境を作るというところで考えてますので。
（参加者）
実際、吉良川の保護者の方には、室戸中学校 1 つになるがやったらよそ行きます。そういう意見も多数あります。室戸の中学校が 1 つになるがやったら俺嫌やっていう。まあ、うちはっきりいうて卒業するんで、関係ないっちゃ関係ないんですけどね。残される子が可哀そうやき、合併はしてもらいたくないよっていう声を多数聞いてます。それが子供の声です。子供のことを考えるんやったら、子供の声もちゃんと聞いてください。子供がどういう風に思うちゅうのか、そこの意見もやっぱりきちっと聞いてもらいたい。
（山本）
あの、また 1 度協議の場を持ちましょう。時間をおいて。今日出たご意見とかも踏まえて、また私たちも考えてはいますので、次には保護者の方とまた協議を持ちたいと思います。私も保護者のその考えっていうのもやっぱ聞きたいがですね、例えば本当に少人数になった時でも、やはりその地域へ残す形が本当にいいのかとかですね。やっぱりその一定の規模で学ばせたいという保護者もおられると思いますし、そういったご意見等についてはまたお聞きする場を持ちますのでよろしくお願いします。
（百田）
私、今名前の出ました野市中学校とか香南市で校長を 10 年以上してました。子供たちと先生、本当に頑張ってます。素晴らしいです。
（参加者）
うちの息子はその野市小学校から来た先生と喧嘩しました。勉強のことばっかりしか言わん。子供の良さを全然見てない。その先生が異動するときにやったって言いましたよ。子供の同級生みんなが。
（百田）
いや、それはですね、私も 10 年近くおりましたので、様々な課題があって非常に子供たちの出入りも激しゅうございます。なお私は、実際その学校の先生方と地域の方の様子を肌で感じてきましたので、やはりですね、はるかにこちらの方がいいという場合もございますし、実際室戸の方からですね香南市の方に学校の指導について学びに教員が行っております。ですから、それぞれが切磋琢磨しておりますので、今たまたま私が校長した学校名がでましたので、そんなところはご理解して頂きたいと思います。

（髙﨑）
ちょっと時間も遅くなってきました。他に、話し合いの場をもつとしまして、今日聞いておきたいことがある方いらっしゃいましたらですね。挙手していただけたらと思うんですが。
（参加者）
アンケートなんですけど、保護者に向けてのアンケートは来たがですけど、実際子供たちにアンケートっていうのを配ってますか。
（山本）
子供たちへのアンケートはとってないですね。こうした問題というのは、やはり様々な観点から考えないかんということで、大人の責任やと思うがですね、こういう方向性を決めていくっていうところは。そういう考えがありますんで、やはり子供にはとってないっていうところですね。
将来的にその統廃合を進むにあたってですね、その子供さんの判断というか、そこはね、やっぱりもう大人が決めちゃらないかんかなとは自分は思うんですけれどもね。
（参加者）
そのアンケートの内容の質問のこととか全部見られました。
（山本）
前回取ったやつ。それは見てます。
（参加者）
見てます。あれ、前回も言ったんですけど、アンケートの仕方がおかしいでしょ。統廃合ありきで。
（山本）
なってますかね。選択があって、存続させるっていう回答とかもありますので、一定統合ありきという方向性で始めたものではないと考えていますね。当然、令和２年に立ち上げた検討委員会の中でも、まず１点保護者に意見を聞いてみたらどうかということですので、やはりその統合にこう誘導するような内容にはなってないという風には考えています。
（参加者）
アンケートした人は、統合に向けてのアンケートでねっていう風にやっぱり受けた。
（山本）
受けましたか。それは自分は検討委員会に携わってないんですけど、そういう意図はなかったという風には認識しております。
（参加者）
もうちょっとアンケートの仕方っていうのも、なぜ、そのアンケートを取る前に、保護者の意見を踏まえた上でのアンケートの仕方にせんかったのかなっていうのが、もう言うたら、市の方で考えられてる統合ありきでのアンケートやったよねっていう意見はやっぱり多数聞いたので。
（山本）
そう取られたのであれば、やはり改善するところはあるのかなとは、直さなくてはいけないとこがあるのかなとは思いますけれども。そういった意味合いでのアンケートではないというところをご理解いただけたらなと思います。

あの、1 回頭冷やしてまた出直してきますき、そこでまた色々話を。

（参加者）

統廃合前提やったらやったち意味ないがやろ。平行線や。

（山本）

やっぱりね、ここで出されちゅう意見っていうのは、すごい大事にせないかんと思うんですよ。仮に統廃合の方向性になったとしても、ここで出された意見というがは、その統廃合で課題になっちゅうことやと思います。そういった課題を今後どういう風な形で対応していくかっていうことで、やっぱり私はここで出されちゅう意見というのは、もう大事にしたいなという風に考えておりますのでよろしくお願いします。

（参加者）

さっきの前の方の人の話に対する教育委員会のその答え、ちょっと無視できないような問題があるとおもうんだよな。要するに、子供たちが何かあったときに親御さんとか地域の人が手を差し伸べるということができなくなるということでね、非常に危機的なことなんだよな。それに対して先生が責任を持つんだというようなことを繰り返し言ってるけど、学校の運営というのは誰がするんだということの根本的な問題がね、ここ抜かってると思うんだよな。おたくらこないだの会でも学校運営協議会、学校運営協議会を作らないかんという事になっとるわけよ。ところが最近だ。各学校運営委員会を作りだしたのは。吉良川作ったのか。

（髙﨑）

吉良川作りました。

（参加者）

つい最近だろ。

（髙﨑）

そうです。

（参加者）

法律が出来たのはもう 5、60 年も前から出来とるんや。学校を運営するのは地域の人が運営するんだっていうことが基本なんだ。教育行政の法律では。先生にまかしっきりじゃないんだ。直接父兄や保護者、地域の人が学校運営に参加する。そういう権限と義務はあるということはね教育行政の法律でははっきりしてきてる。ところが学校運営協議会を作りだしたのはごく最近なんだ。吉良川いつ作ったんだ。

（参加者）

今年からです。

（参加者）

今年か。昭和 32 年、わしらが中学校にまだ通いよった時分にやね、できとる法律が今頃になってしとる。地域の者が学校を運営するというのが、これが新しい（聞き取れず 2：10：42）。いままでやらなかったからだからそういう考え方が出てくるんじゃないのか。親御さんが、子どもが大変な時には親御さんが支えてくれて、世話してくれるのは当然のことなんだ。そういうことができないようになってしまうんじゃないかって言ってるわけ。根本的に考え直してもらいたいな。

（山本）
●●さん。それはご意見としてお伺いしちょって構いませんか。
（参加者）
先ほど出た学校協議会、例えば室中へ統合されたら、中学校の協議会というのは当然学校がないとこはないなってね、例えば吉良川は小学校があるけど、小学校の協議会となる。
（山本）
今、イメージしているのが統合中学校で、各地域の方に入ってもらった、そういった組織っていうのは立ち上げないかんかなと考えております。
（髙﨑）
他に何かございませんか。
無いようでしたら、ちょっと遅くなってきましたので、本日の会はこれで終了させていただきたいと思います。
遅い時間までありがとうございました。